



令和2(2020)年

10月1日



9月13日
芦屋中学校
スポーツ大会



頑張ろう芦中2020
～乗り越えよう!今、心をひとつに芦中生!～



寄添者よそもんですが何か!?

寄添者とは、「人」に「町」に「心」に寄り添いたい者という意味です。

近年の迫りくる天変地異の脅威

ゲリラ豪雨、記録的大雨、線状降水帯、集中豪雨、巨大台風などいまだかつて経験したことのない自然災害がここ数年多発し、毎年聞いたこともない災害に関する言葉を聞くにつれ、日頃の備えを怠ることはできません。

そんななか、私たちの力強い味方として芦屋町にやってきたのは、経験豊かな危機管理専門官の岸本三英さんです。岸本さんは兵庫県宝塚市出身の元航空自衛隊芦屋基地の気象予報士で、今年の4月から芦屋町総務課に勤務している寄添者です。



岸本 三英さん・町の危機管理専門官
気象予報士・防災士



△6月に行われたコロナ対策を踏まえた避難所開設訓練の事前解説の様子



△出前講座「知って安心!まちの防災」で講師を務める



△9月、台風10号接近前の避難所開設準備。ソーシャルディスタンスを保つためのテントを組み立てる

頼もしい町の危機管理専門官

岸本さんは、航空自衛隊の自衛官として静岡県や石川県などを回り、芦屋基地では気象予報官として勤めていました。

パイロット養成の飛行訓練は、命のかかった訓練です。より安全に飛行できるよう正しい気象予報を行うのはとても重要で、責任感、使命感を持って任務を遂行していたそうです。

ふうこうめいび 風光明媚な芦屋町が大好き

岸本さんは仕事を離れると、芦屋町の海岸線で太陽が作り出す美しい景色を眺めながら趣味のジョギングを楽しむことも。芦屋町を好きになり、10年前に家を購入し定住することを決めていました。

芦屋基地で定年を迎える岸本さんは、自衛隊の同僚から芦屋町が危機管理専門官を募集していると聞き、自分の知識と経験が町の皆さんの役に立てばと思ったことと、募集と退職のタイミングが合ったことに縁を感じて応募したそうです。

危機管理専門官としての目標

岸本さんの目標は「芦屋町を災害に強い町にすること」。町の防災に携わるようになってから、防災計画や避難所運営マニュアルなどの見直しや、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた避難所開設訓練の実施、出前講座による住民の皆さんの防災意識の啓発などに取り組んできました。

岸本さんは、「皆さんに伝えたいことは、災害への備えには何気ない日常にヒントがたくさんあるので、どんな小さなことでも備えを始めることが大切だということです。例えば、寝室には背の高い家具を置かない。寝るときは枕元にライトと避難用具を置く。ホテルなどに外泊するときは避難経路を確認するなどです」と話します。

ほかにも防災の話がたくさん聞きましたが、書ききれないので出前講座「知って安心!まちの防災」を利用してみてください。